

倉吉方言の言いさし文 —行くけえ。知らんに。—

小矢野哲夫



倉吉ことばの会 第3回講演会
倉吉パークスクエア倉吉交流プラザ2階
2017年10月22日（日）14時～16時

概要

- ▶ 倉吉方言で多用される表現のうち、「行くけえ」「知らんに」のような、「けえ」「に」で終わる文を取り上げます。「けえ」は順接、「にい」は逆接の接続形式ですが、あとに何も続けないで文末に現れ、いわば「言いさし」の形で実質「言い切り文」として使われます。その意味と用法について分析し考察します。

言いさし文とは 接続助詞で終止した文のこと。

1) 「ダンス歴は？」 「まったくの初めてですけど」 (『Shall we ダンス?』)

2) 「ややこしいやっちゃんあ」 「ちょっと、煙草買うてくるから」 (『男女7人秋物語』)

3) 「そういう道は、納得いく形で自分を生かすことはできないと思います。魅力も感じていませんし。」 (『阿川佐和子のこの人に会いたい』)

4) 「ちょっと来てくれる？ 心細くて。」 (『N・P』)

白川博之著 『「言いさし文」の研究』 2009年、くろしお出版、p.1-2



接続助詞は節をつなぐはずなのに

【接続】（依頼「待ってて」の理由付け）

- ▶ ちょっとお茶買ってくるから、待ってて。

【省略】（主節「待ってて」の省略）

- ▶ ちょっとお茶買ってくるから。

【倒置】（依頼と理由付けの順序を入れ替える）

- ▶ 待ってて、ちょっとお茶買ってくるから。

【言いさし】→言い切り

- ▶ ちょっとお茶買ってくるから。

- ▶ ちょっとお茶買ってくる。

倉吉方言での使用例

- ▶ 【接続】 ちょっとお茶買ってくるけ、待っというて。
- ▶ 【省略】 ちょっとお茶買ってくるけ、待っというて。
- ▶ 【倒置】 待っというて、ちょっとお茶買ってくるけ。
- ▶ 【言いさし】 ちょっとお茶買ってくるけ。

省略でも倒置でもない例 = 言いさし

- ▶ ありゃ、もうこがな時間だわ。いぬるけ。
- ▶ そろそろいぬるけ。お邪魔しましたなあ。

雨が降っているから

接続助詞「から」の方言形

(雨が降ってる) はで
青森

(雨が降ってる) すけ
新潟・山形庄内地方

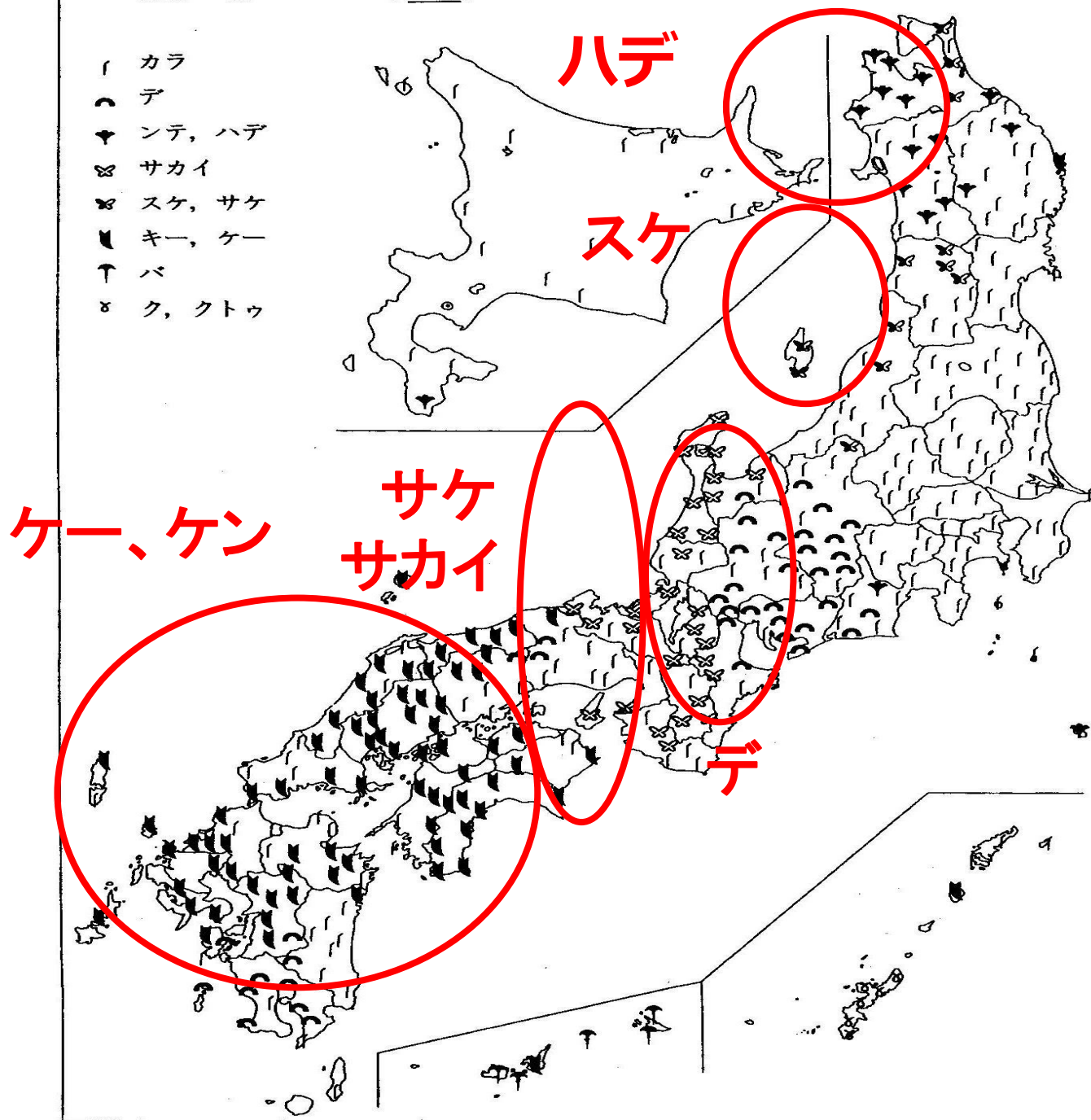
雨が降るとるで
中部地方

雨が降ってるさかい さけ
近畿・北陸地方

雨が降るとるけー けん
中国・四国・九州
地方

図16 「雨がふっているから」

- 「カラ
- ハデ
- ンテ、ハデ
- サカイ
- スケ、サケ
- キー、ケー
- ↑
- バク、クトウ



「けえ」の使用地域

けえ

けえ

けえ

けえ

けん

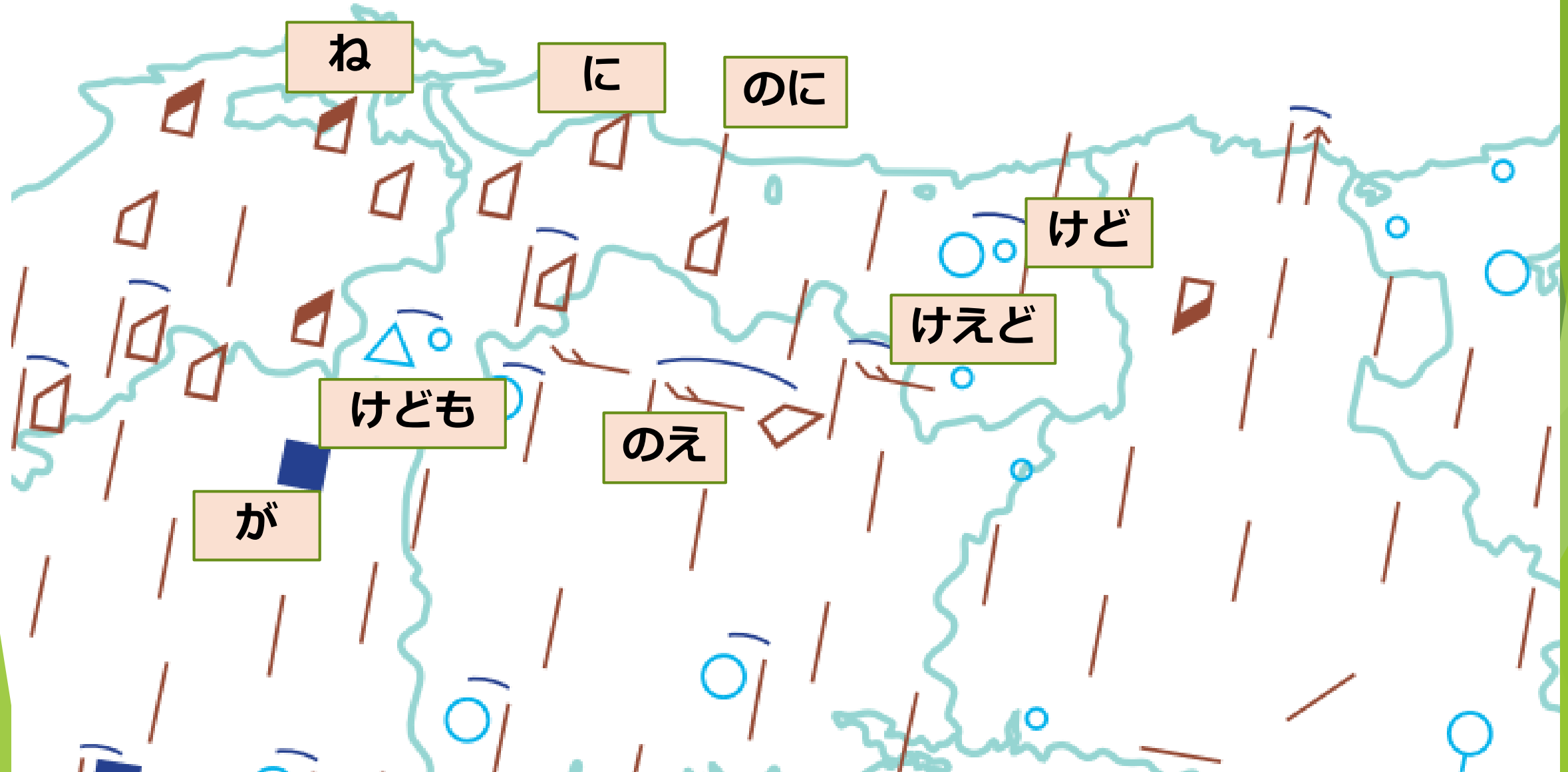
けえ

けえ

けん

けえ

『方言文法全国地図』 接続助詞「のに」
「木を植えたのに枯れてしまった」



「けえ」「に」が付く文タイプ

- ▶ **平叙文**に付く。（主節の文末に付く。）ただし、名詞の場合はダによって述語化したものに付く。

断定と推量

- ▶ 昨日出いたけ。うるさいけ。静かなけ。あした雨だけ。
- ▶ 昨日出いたに。うるさいに。静かなに。あした雨だに。
- ▶ 昨日出いただらあけ。あしたは雨だらあけ。
- ▶ 昨日出いただらあに。あしたは雨だらあに。

「けえ」「に」が付く文タイプ

評価を表す形式にも付く

- ▶ 行かなあいけんけえ。
- ▶ 行かなあいけんに。

蓋然性・証拠性の形式にも付く

- ▶ 行くかもしらんけえ。雨が降りさあなけ。だんだん慣れて来たげなけ。でこさんみたいなけ。
- ▶ 行くかもしらんに。雨が降りさあなに。だんだん慣れて来たげなに。でこさんみたいなに

「けえ」「に」が付かない文タイプ

- ▶ 疑問文 * **いつ**出いたけ。 * 昨日出いた**か**け。
- ▶ * **いつ**出いたに。 * 昨日出いた**か**に。
- ▶ 命令文 * 出し**ない**け。
- ▶ * 出し**ない**に。
- ▶ 依頼文 * 出しといて**け**。 * 出しといて**一な**け。
- ▶ * 出しといて**け**に。 * 出しといて**一な**に
- ▶ 禁止文 * まんだ出す**な**け。 * まんだ出しなん**な**け。
- ▶ * まんだ出す**な**に。 * まんだ出しなん**な**に。

「けえ」はどんな語形に付くか

動詞

- ▶ 知つとるけえ。知らんけえ。
- ▶ 知つとるだけ。知らんだけ。
- ▶ 知つとったけ。知らなんだけ。
- ▶ 知つとっただけ。知らなんただけ。

形容詞

- ▶ 高いけ。高ないけ。
- ▶ 高いだけ。高ないだけ。
- ▶ 高かったけ。高なかったけ。
- ▶ 高かっただけ。高なかっただけ。

「けえ」はどんな語形に付くか

形容動詞

- ▶ にぎやかなけ。にぎやかでないけ。
- ▶ にぎやかなだけ。にぎやかでないだけ。
- ▶ にぎやかだったけ。にぎやかでなかったけ。
- ▶ にぎやかだっただけ。にぎやかでなかっただけ。

名詞

- ▶ 雪だけ。雪でないけ。
- ▶ 雪だったけ。雪でなかったけ。
- ▶ 雪だっただけ。雪でなかっただけ。

「けえ」はどんな語形に付くか 助動詞等

- ▶ 行くだらあけ 行かんだらあけ
- ▶ 行っただらあけ 行かなんだらあけ
- ▶ 行くさあなけ 行かんさあなけ
- ▶ 行くさあなだけ 行かんさあなだけ
- ▶ 行っただらあけ 行かなんだらあけ
- ▶ 行っただらあなだけ 行かなんだらあなだけ
- ▶ 行かなあいけんけえ
- ▶ 行かなあいけんだけ
- ▶ 行かなあいけんただけ
- ▶ 行かなあいけんただけ

「に」はどんな語形に付くか

動詞

- ▶ 知つとるに。知らんに。
- ▶ 知つとるだに。知らんだに。
- ▶ 知つとったに。知らなんだに。
- ▶ 知つとっただに。知らなんだだに。

形容詞

- ▶ 高いに。高ないに。
- ▶ 高いだに。高ないだに。
- ▶ 高かったに。高なかったに。
- ▶ 高かっただに。高なかっただに。

「に」はどんな語形に付くか

形容動詞

- ▶ にぎやかなに。にぎやかでないに。
- ▶ にぎやかなだに。にぎやかでないだに。
- ▶ にぎやかだったに。にぎやかでなかったに。
- ▶ にぎやかだっただに。にぎやかでなかっただに。

名詞

- ▶ 雪だに。雪でないに。
- ▶ 雪だったに。雪でなかったに。
- ▶ 雪だっただに。雪でなかっただに。

「に」はどんな語形に付くか

助動詞等

- ▶ 行くだらあに。 行かんだらあに。
- ▶ 行っただらあに。 行かなんだらあに。
- ▶ 行くさあなに。 行かんさあなに。
- ▶ 行くさあなだに。 行かんさあなだに。
- ▶ 行ったださあなに。 行かなんださあなに。
- ▶ 行ったださあなだに。 行かなんださあなだに。
- ▶ 行かなあいけんに。
- ▶ 行かなあいけんだに。
- ▶ 行かなあいけなんだに。
- ▶ 行かなあいけなんだだに。

「けえ」の個別事例

- ▶ 先に行って待っとするけえ。
- ▶ また来てよお。待っとするけえ。
- ▶ なら、また来るけ。
- ▶ 帰るけ。
- ▶ あした持ってくるけ。
- ▶ もう知らんけえ。
- ▶ 知らなんだだけ。
- ▶ うそだけ。
- ▶ 「結局引き受けならなんだか」 「だけ」

「に」の個別事例

- ▶ なにしとっだいや。さっきから待っとするにいい。
- ▶ 遅いだなあ。さっきから待っとなったに。
- ▶ よう来なったなあ。待っとなったに。
- ▶ (そのことは) あんまりよう知らんに。
- ▶ ようけ持って来とするに。もらってごしないな。
- ▶ 先に食べよるに。/先に食べよったに。/先に食べちゃったに。
- ▶ 汚れちゃったに。/汚しちゃったに。
- ▶ そがな重たいもん持つだかえ。えらからあに。
- ▶ 寒からあに。
- ▶ 待っとなったに。「結局引き受けならなんだか」「だに」

「倉吉のおばさん」から

<http://www.mahoroba.ne.jp/~gonbe007/hog/kuraoba.html>

- ▶ 今年か！　それが　どだい　いけんかったけ。
- ▶ ほおんに　昔みちやあに　もうひやあ～　よお　がんじょせんけえ。
- ▶ まあ　ええがいな　おばさん。そおがに心配しならあでもええけ！
- ▶ ひいんがわりい　け！　やあめいや！
- ▶ ほおんに　腹がわりいけえ
- ▶ それがな　カメムシがよお～けおって　えらいことすっだけ！

「倉吉のおばさん」から

<http://www.mahoroba.ne.jp/~gonbe007/hog/kuraoba.html>

- ▶ どお～がでも 乗っただけな～！
- ▶ 布団のうえ～乗るのお いいちばんすかあんだけ！
- ▶ 今日は 忙しいやなに こおがに ええつと ほおんに よう来てごしなつて すんませなんだ。
- ▶ うちも 来たじえ。楽しみにしとつたに～。
- ▶ あれ！ 今日干したばかりだに。

「け」と「だけ」の意味・機能

- ▶ 行く**けえ**。「行く」ことを表明し、聞き手に伝える。「けえ」を付けない「行く」が意志の表明であるのに対して、「けえ」を付けると聞き手に強く伝える態度が現れる。
- ▶ 行く**だけ**。「行く」ことを既定のこととして断定判断していることを聞き手に伝える。「けえ」を付けない「行くだ」が共通語の「行くのだ」に相当し、強調した表現となる。これに対して、「けえ」を付けると聞き手に強く伝える態度が現れる。

「に」と「だに」の意味・機能

- ▶ 知らん**に**。「知らない」ということを表明し、聞き手の予想に沿わないかもしれないという気持ちを伴って伝える。「に」を付けない「知らん」が、事実の表明であるのに対して、「に」を付けると聞き手に伝える態度が現れる。
- ▶ 知らん**だに**。話し手が、自分が「知らない」ことを既定のこととして断定判断していることを、予想外だという気持ちを伴って聞き手に伝える。「に」を付けない形「知らんだ」は共通語の「知らないのだ」に相当し、強調した表現となる。これに対して、「に」を付けると聞き手の予想に沿わないかもしれないという気持ちを伴って伝える態度が現れる。

参考文献

- ▶ 大塚杏未（2016）「鳥取県倉吉方言の聞き手目当ての文末表現「二」について」『阪大社会言語学研究ノート』14 pp.76-93
- ▶ 白川博之（2009）『「言いさし文」の研究』くろしお出版
- ▶ 友定賢治（1981）「転生文末詞『二（二一）の分布について—中国地方を中心に—』『島大國文』10
- ▶ 湯浅千映子（2003）「鳥取方言の談話展開の方法—情報単位という観点から見た情報の内容・機能とその配列について—」『学習院大学人文科学論集XII』pp.103-132, 学習院大学大学院人文科学研究科 [編]
- ▶ 湯浅千映子（2004）「鳥取方言の談話展開の方法—情報の配列と文末形式「ケー」の関連について」『学習院大学国語国文学会誌』47, pp.74-61, 学習院大学国語国文学会編